

最終評価シート

最終評価（表紙）

犬山市歴史的風致維持向上計画（平成21年3月11日認定） 最終評価（平成20年度～30年度）

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 文化財保護法に基づく継続的な取組みと資源の活用.....	3
II まちづくりと連携した歴史的資源及び公共施設の保全.....	4
III 市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成.....	5
IV 歴史的資源の新たな価値付け.....	6
V 文化施設の充実.....	7
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 犬山城登閣者数の増加.....	8
ii 外国人観光客の増加.....	9
iii 市民活動の活発化.....	10
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 堀部家住宅整備事業.....	11
B 文化史料館リニューアル事業.....	12
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 犬山祭と犬山城・城下町に見る歴史的風致.....	13
2 木曾川周辺に見る歴史的風致.....	14
3 犬山焼に見る歴史的風致.....	15
4 豊年祭とハッハ祭などに見る歴史的風致.....	16
5 石上祭の歴史的風致.....	17
6 虫送りに見る歴史的風致.....	18
■ 庁内体制シート(様式6).....	19
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	20
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	21

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	犬山祭と犬山城・犬山城下町にみる歴史的風致	I, II, III, V	
2	木曾川周辺にみられる歴史的風致	III	
3	犬山焼にみる歴史的風致	III	
4	豊年祭とハッハ祭などにみる歴史的風致	I	
5	石上げ祭にみる歴史的風致	III, IV	
6	虫送りにみる歴史的風致	III, IV	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	文化財保護法に基づく継続的な取組みと資源の活用		
II	まちづくりと連携した歴史的資源及び公共施設の保全		
III	市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成		
IV	歴史的資源の新たな価値付け		
V	文化施設の充実		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	犬山城登閣者数の増加		
ii	外国人観光客の増加		
iii	市民活動の活発化		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	堀部家住宅整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	文化史料館リニューアル事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
方針	I 文化財保護法に基づく継続的な取組みと資源の活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】

城下町に残る歴史的建造物は、所有者の高齢化や世代交代が進む中で、その維持管理が困難なケースがあり、年々減少傾向にある。

【方針】

建造物の歴史的な価値を調査し、文化財等への指定を図りながら、建造物の維持管理を支援する仕組みを充実させる。地域住民や民間団体などとの連携を図りながら、文化財等の活用を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	堀部家住宅整備事業	建造物を修理し、現在公開中	あり	H21～23
2	文化財保存事業費補助金事業	27件の修景補助	あり	H22～
3	景観重要建造物助成事業	5件の指定、1件の修景補助	あり	H20～
4	景観形成助成事業	32件の修景補助	あり	H20～
5	登録有形文化財所有者研修会	27年度より毎年1回開催	なし	H27～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【文化財保存事業費補助金事業】

価値の高い建造物は歴史的風致形成建造物に指定した上で、店舗などへの利活用が図られた。犬山北のまちづくり推進協議会が実施した町内住民を対象とするアンケートによると、82%が「良くなった」と回答していることからその成果を住民が実感できている。

【登録有形文化財所有者研修会】

防災対策をはじめ、城下町における今後のまちづくりについても意見が交わされた。特に防火については、初期消火の重要性や放火対策など、地域の監視体制を強化するなど具体的な方法が提示され、所有者の防火意識が向上した。

【景観重要建造物助成事業】

平成28年度までは景観重要建造物の指定物件がなく、助成事業が進まなかったが、平成29年度に5件の指定が実現。1件の助成が行われ、景観の保全が図られた。

【景観形成助成事業】

これまでで32件の助成を実施しており、犬山市景観条例に基づく景観形成地区内での景観の保全に繋がった。

岩田家修景事例



修景前(H27.4)



修景後(H27.5)

④ 自己評価

建造物の価値を評価し、歴史的建造物として指定することで、町並みの景観が保たれ、城下町全体の質の向上に繋がった。また、住民意識の向上にもつながり、城下町を舞台にしたお雛様めぐりやワイン祭りなど、住民主体の取組みが展開された。一方で、城下町で発生した火災による文化財の滅失、空き家の増加、建造物の継続的な維持管理など、様々な課題が残されている。

⑤ 今後の対応

第2期計画においても、引き続き歴史的風致形成建造物及び景観重要建造物への指定を推進し、各種助成制度を運用しながら、さらなる歴史的風致の維持向上を目指して、町並みの景観を保全していく。また、防火・防災対策については、文化財部局と消防本部との連携のもと、今後の対応策について検討する。

景観の保全については城下町地区における看板等のルール化など、住民の理解を得ながら、庁内での連携のもとに取り組んでいく。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
方針	II まちづくりと連携した歴史的資源及び公共施設の保全	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】

城下町には景観を阻害している建造物があり、除却を含めた適切な措置が必要である。また、自動車の城下町への流入により安全性が懸念されている一方で、駐車場の整備は不十分である。さらに、城下町の防災機能についても避難場所がないなど課題が多い。

【方針】

景観改善のため、必要な措置を講じる。城下町エリア外での駐車場の整備と避難場所の整備をする。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	新町線道路美装化事業	電線地中化及び道路美装化を実施	あり	H21～22
2	防災公園・観光駐車場等整備事業	防災公園及び観光駐車場等の整備	あり	H26～30
3	防災公園街区整備関連事業	防災公園前の道路の拡幅整備	あり	H27～28
4	旧体育館撤去・体育館跡地整備	旧体育館の撤去と跡地の整備	なし	H28～29

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【新町線道路美装化事業】

道路の美装化に伴い、住民の意識が向上したことから、建造物の修景も進み、木戸の形態を残す貴重な通りとして、景観の改善が見られた。

【防災公園・観光駐車場等整備事業、防災公園街区整備関連事業】

城下町は幅員6m未満の道路が大半であり、緊急車両の通行が困難であることや、避難地となり得る広い空を有していなかったため、防災面や安全面で課題があった。防災公園の整備によりそうした課題が解消された。また、観光駐車場についても最大360台分の駐車場が確保され、渋滞が解消された。

【旧体育館撤去・体育館跡地整備】

景観阻害物件として指摘されていた旧体育館が除去されたことにより、犬山城が通りから見渡せるようになり、景観が改善された。跡地が広場として整備され、新たな撮影スポットが生まれた。

旧体育館撤去と跡地整備



撤去前



撤去後

④ 自己評価

道路が美装化され、電線が地中化されたことにより、先に整備された本町通りの景観と合わせて、城下町のまち並みが劇的に改善された。旧体育館の撤去も眺望の改善に大きく貢献している。懸念された城下町の防災機能や駐車場問題についても、防災公園の整備によって概ね解消された。

⑤ 今後の対応

旧体育館と並んで景観阻害物件として指摘されている犬山市福社会館は、平成31年度に機能を停止し、取り壊しが計画されている。福社会館の所在地は大手門があった場所として城下町の中でも重要な場所の一つであるため、取り壊し後の整備などについては、城下町全体のまちづくりを見据えて計画を策定する。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
方針	Ⅲ市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】

祭礼等をはじめとする伝統行事は、地域の生活文化の核として住民を結集させる上で重要な役割を果たしている。しかし、近年における少子高齢化やコミュニティの崩壊などに伴い、これらの行事の継続が困難になってきている。

【方針】

行事を後世に正しく伝承するため、継承者や技術者の育成と支援を図る。また、市民の伝統文化や文化財に対する理解を向上させる取り組みを推進する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	犬山祭山車保存修理補助事業	犬山祭の用具の保存修理を支援(補助金交付他)	なし	S42～
2	犬山祭伝承助成事業	犬山祭参加町内の活動を支援(補助金交付)	なし	S47～
3	市民総合大学での講座の開催	3講座を11年間で115回開催	なし	H14～
4	歴史まちづくりセミナーの開催	平成21年度から毎年1回開催	なし	H21～
5	民俗文化財保存伝承事業	11年間で161件の後継者育成事業に対し補助	なし	H22～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【犬山祭山車保存修理補助事業】

平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録された犬山祭を、犬山祭伝承保存委員会、犬山祭保存会、市が連携して、後世に正しく伝承し守り育てていくための各種事業を継続実施している。原資料の材料分析に基づく仕様の決定を推進し、文化財をできる限り古い状態のまま伝え、犬山祭の歴史的価値を未来に向けて高めていくための方策を確立しつつある。

【歴史まちづくりセミナーの開催】

「地域に残る歴史的資産を活かしたまちづくり」をテーマに、市内6地区それぞれの地域の特徴を活かしたまちづくりを考える機会とするため、平成21年度から計9回開催し、580名の参加があった。各地区のよさに気づく機会となり、このセミナーがきっかけで地域の歴史文化の掘り起こしに住民自らが取り組み始めた地域もあり、成果が見られる。

【民俗文化財保存伝承事業】

地域の民俗行事で使用される道具等の修繕に対する助成をし、子どもたちへの指導など後継者育成に係る費用について助成をすることで、活動団体の負担を軽減し、地域の伝統行事の継承に繋がった。



歴史まちづくりセミナーの様子
H29.11



大人が子どもたちに舞や笛を指導する様子
H29.8

④ 自己評価

多くの課題を抱える地域の祭礼や伝統行事を経済面で支援することは、地域の文化の継承と活性化に繋がり、それは市全体の魅力の向上にも繋がるため、重要であり、大きな成果を生み出している。

城下町以外の地域にも多くの歴史的資産が残されており、それらへの気づきを促すことができた。

⑤ 今後の対応

平成29年度に初めて民俗行事を継承する団体同士の情報交換会を開催したところ、改めて指導者や後継者の不足により行事の継承が難しくなっている現状が浮き彫りになった。補助金など経済面での支援を継続するとともに、団体同士の交流を促し、課題の発見と解決に繋がる取り組みを推進していく。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
方針	IV歴史的資源の新たな価値付け	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】

市内には多くの歴史的資産が残されているが、これまでに十分な資料文献調査や現地調査がなされていないものもあり、資料の滅失や語り部がいなくなることによって、その歴史的な価値が証明できなくなる恐れがある。

【方針】

城下町を含めた市内各所に残る文化財や祭礼行事などについて調査し、過去と現状を記録する。調査結果を報告書等にまとめ、地域のまちづくりに活用する。文献等のデータ化をし、保存を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	犬山城総合調査	犬山城跡における総合調査・研究を実施	なし	H20～28
2	城下町歴史的建造物現状調査	歴史的建造物の立地状況と建築年代を整理	なし	H27
3	石上祭総合調査	祭りの過去と現状を調査中	なし	H29～
4	塔野地獅子舞調査	塔野地地区の獅子舞について調査	なし	H28～29
5	文献等のデータ化	合計722点の写真や絵図等をデータ化	なし	H25～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【城下町歴史的建造物現状調査】

本調査とこれまでに実施した城下町の時代変遷などの調査結果を基にまち歩きマップを作成し、好評を得ている。

【塔野地獅子舞調査】

起源が江戸後期まで遡ると伝わる塔野地獅子舞は、社会情勢の変化に伴う後継者不足により約20年前に途絶えてしまった民俗芸能である。当時の状況を記憶する長老が健在であるうちに、この芸能に関する聞き取り等を行い、記録を残すべく調査を実施した。話者によって語られた当時の練習や披露の実態を記録し、芝居の台本や衣装を撮影した。また、調査結果をもとに「芝居する獅子」展を文化史料館にて開催し、市民・観光客に向けてかつて犬山に存在した芸能の姿を紹介した。

【文献のデータ化】

市や民間が所有する絵図や写真をデータ化し、一部をホームページで公開した。



作成したまち歩きマップ



塔野地獅子舞の当時の様子

④ 自己評価

調査を実施することで、歴史的資産に関する基礎資料が得られ、歴史的な価値を明らかにできるだけでなくマップ等で情報公開することで、地域住民にとっては意識の向上に繋がり、地域の歴史文化を再認識するきっかけとなった。

⑤ 今後の対応

城下町における火災によって、多くの資料が焼失した経験から、今後も継続して資料のデータ化を進め、適正な管理や公開を図る。鶺鴒や寺院など、まだ調査が行われていない歴史的資産についても順次調査を進め、資料の発掘と、歴史的な価値の解明に努める。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
方針	V文化施設の充実	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】

文化財は適正な保護と管理が必要であるが、その価値を知り、文化財から学ぶこともまた重要であり、広く公開し、活用することが求められる。しかし、それらを公開するための場所の整備や人材の確保が十分ではない。

【方針】

文化財を公開するための施設整備を進める。また、所蔵する歴史的資料を調査・研究する専門職員の配置・育成を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	犬山市文化史料館整備事業	城と城下町を結ぶガイダンス施設としての改修	あり	H21～24
2	史跡東之宮古墳整備事業	基本・実施設計策定、保存活用計画策定	なし	H29～30
3	（仮称）文化史料館南館整備事業	基本設計及び実施設計の策定	なし	H29～31

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【犬山市文化史料館整備事業】

犬山城と城下町を結ぶガイダンス施設及び「城と城下町の歴史と武家町人の生活文化」を調査・公開する施設とするため、整備を行った。常設展示のほか、企画展を年3～4回催すなど、犬山城と城下町について学ぶ機会が提供できた。

【史跡東之宮古墳整備事業】

平成32年の供用開始に向け、進入路整備や樹木伐採など、計画に基づいた整備が進んでいる。普及啓発事業として散策マップツアーや小学生を対象にしたイベント等を開催し、古墳への関心を高めることができた。

【（仮称）文化史料館南館整備事業】

からくり人形の展示と実演を通じて、日本のロボット技術の先駆けでもあるからくり技術の普及啓発と、犬山のからくり文化を広く紹介することを目的に施設の整備を行うもので、市民や関係団体の意見を踏まえ、基本設計及び実施設計を策定することができた。



消しゴムで古墳を作っている様子
H29.11



（仮称）文化史料館南館内観イメージ

④ 自己評価

史跡東之宮古墳整備事業及び（仮称）文化史料館南館整備事業は、いずれも文化財の普及啓発を進めるため実施しているもので、整備に向けた計画や整備後の保存活用計画を策定することができた。子どもたちの関心を高めるための事業にも力を入れ、将来の専門家を育てる機会となった。

⑤ 今後の対応

史跡東之宮古墳は施設の整備とAR導入に向けたシステム開発を進める。市内には多くの古墳が現存しているが、認知されていないものも多いため、普及啓発事業に引き続き取り組む。（仮称）文化史料館南館は平成31年度に施工、オープンを予定しており、管理運営方法や集客力の向上に向けた取り組みの検討をする。

人材の確保については大きな課題であり、人材の育成も含めた適正な人員配置が必要。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
効果	i 犬山城登閣者数の増加		

① 効果の概要

犬山城の登閣者数が10年間で約2倍に増加

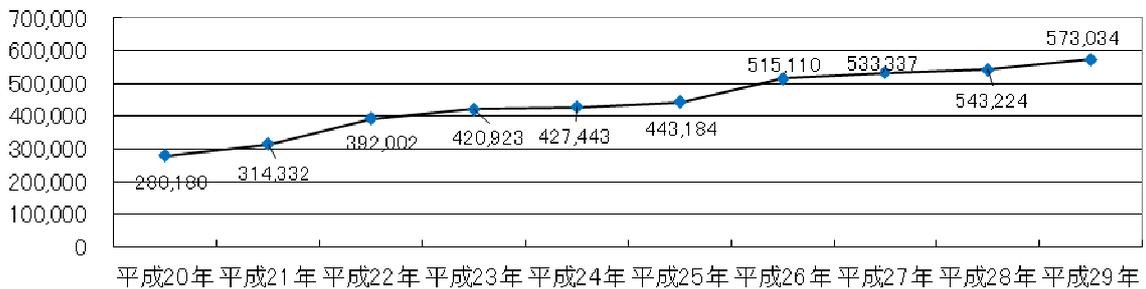
② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	犬山市総合計画	あり	H23～34
2	犬山市景観計画	あり	H20～

③ 効果発現の経緯と成果

・歴史的風致維持向上計画の計画期間における犬山城への登閣者数は、平成20年には約28万人であったが、城下町内の市道2路線での電線類地中化、道路美装化工事及び建築物の修景によるまち並みの整備等に伴い、古くからのまち並みを残す城下町を持つ城としての知名度が高まり、平成29年には約57万人の登閣者数となるなど、登閣者数が約2倍となった。
 ・平成30年2月13日には史跡犬山城跡として指定を受けるとともに、文化財として維持、保存するために、必要に応じて修理等を行っている。

犬山城登閣者数の推移



④ 自己評価

犬山城の維持、保存は当然のことであるが、道路整備や建築物の修景など城下町における様々な取り組みにより、犬山祭りなど人々の営みを反映した美しいまち並みが保全され、その城下町のシンボルとしての犬山城への登閣者数の増加につながった。



平成29年のしゃちほこの修理の状況

⑤ 今後の対応

犬山城天守保存活用計画及び史跡犬山城跡保存活用計画を策定することで、天守のみならず、その周辺も含めた、一体的な文化財としての保存、活用を計画的に進めていく。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
効果	ii 外国人観光客の増加		

① 効果の概要

外国人観光客が10年間で約3倍に増加

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	犬山市総合計画	あり	H23～34
2	広域観光周遊ルート形成計画「昇龍道」	なし	H27～32

③ 効果発現の経緯と成果

犬山市の外国人宿泊客数はこの10年間で増加傾向にある。特に犬山城への登閣者数で見ると、約4倍に増えている。

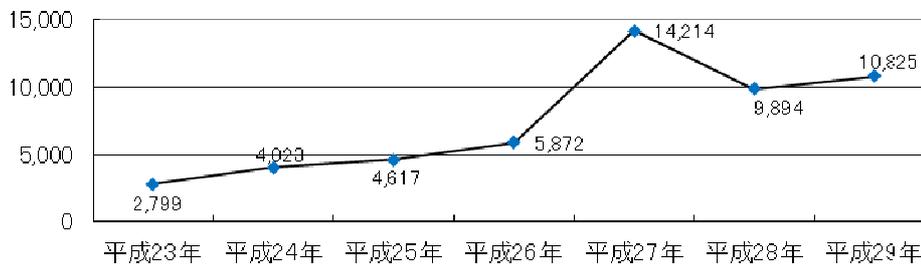
城下町的美装化事業が完了した平成23年度以降の伸び率が高いことから、これまでの事業の成果が見て取れる。

こうした外国人来訪者の増加に対応するため、市内施設のパンフレットの多言語化や案内看板の整備、城下町地区における無料公衆無線LANサービスの提供を開始した。



多言語化したパンフレット

犬山市の外国人宿泊者数の推移



提供：犬山市観光協会

④ 自己評価

近年では犬山祭の車山行事がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、海外に犬山の歴史文化が紹介されたことが大いに影響していることと、誘客活動を積極的に実施し、多言語化などに取り組んだことが、更なる外国人来訪者の増加を生み出している。しかし、施設におけるパンフレットでの対応にとどまるなど、城下町全体での外国人対応としては不十分である。

⑤ 今後の対応

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、さらに外国人の来訪が増えることが見込まれる。施設においてはパンフレットだけでなく、展示説明や誘導表示等の多言語化を検討する。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年																
効果	iii 市民活動の活発化																		
<p>① 効果の概要</p> <p>住民が主体的に地域の歴史などを研究し、また、地域の歴史的資産を活かした取組が展開された</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>犬山市総合計画</td> <td>あり</td> <td>H23～34</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>都市再生整備計画</td> <td>あり</td> <td>H26～30</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>歴史的環境形成総合支援事業</td> <td>あり</td> <td>H21～22</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	犬山市総合計画	あり	H23～34	2	都市再生整備計画	あり	H26～30	3	歴史的環境形成総合支援事業	あり	H21～22
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	犬山市総合計画	あり	H23～34																
2	都市再生整備計画	あり	H26～30																
3	歴史的環境形成総合支援事業	あり	H21～22																
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>国登録有形文化財「旧堀部家住宅」の整備及び活用に対する検討は、城下町南地区の住民の意向も踏まえながら進められたが、特に犬山南のまちづくりを考える会は、一般公開が開始される以前から、除草などの施設の管理や建造物の歴史的価値を啓発するためのイベントの開催など、建造物の整備に向けての取り組みに関わってきた。その他にも旧堀部家住宅を活用したワークショップが開催されるなど、施設を中心に南地区のまちづくりが活発化した。</p> <p>一方、城下町北地区においても、本町通りを中心に道路の美装化などが進んだことにより、住民の歴史文化に対する意識が高まり、様々な市民団体によるイベントが増加した。からくり町巡りやお雛様めぐりなど、城下町の回遊性を活かした取り組みが繰り広げられ、住民と観光客との交流が創出された。</p> <p>歴史まちづくりの啓発活動は、城下町だけでなく市内各地区でも行ってきた。平成21年度から毎年開催している歴史まちづくりセミナーでは、各地域の歴史資産を活かしたまちづくりについて講演を行い、それをきっかけに楽田地区では住民組織が立ち上がり、地域の歴史資料を研究したり、研究成果を発表する機会として、歴史探訪ウォーキングを実施するなどの活動がなされた。</p>																			
<p>④ 自己評価</p> <p>これまでの取り組みにより、市内で地域の歴史文化への意識が高まり、歴史まちづくりの考え方が市域全体へと広がってきていることが、市民主導のイベントが増えてきていることからわかり、評価できる。</p>		 <p>お雛様めぐりの様子 H29.3</p>  <p>旧堀部家住宅で開催された戦争体験を聞く会 H26.8.22</p>																	
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>これまで行政主導で行われてきた文化財の保護や活用の取り組みが、徐々に市民主導でも行われるようになってきている。この流れを継続させるため、引き続き歴史まちづくりの啓発事業に取り組んでいく。</p>																			

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
取り組み	A 旧堀部家住宅整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>国登録有形文化財「旧堀部家住宅」は、城下より名古屋に通じる主要な街道「名古屋往還」の外堀枡形を出た場所に位置しており、ここは江戸時代には足軽組長屋が所在した場所である。堀部家は代々成瀬家に仕える士族であったが、明治初年に第16代堀部勝四郎がこの土地に居を構え、養蚕業を営んだ。現在の主屋は棟札により明治16年に建築されたものであり、武士の住宅に見られる特徴と風格を色濃く残した住宅である。</p> <p>この貴重な建造物を地域の歴史的資産の一つとして保存し活用するため、平成21年度に土地と建物を市が取得し、平成22年度から平成23年度に屋根や外壁等の整備を行った。</p> <p>施設の活用については取得前から地域住民が中心となって議論を重ね、除草作業や地域のイベントなどを通して、建造物の啓発を進めてきた。現在はプロポーザルにより選定された民間団体と賃貸借契約を結び、市は維持管理費に相当する額の賃借料を得ながら、施設の管理運営を民間に任せている。民間のノウハウを活かした専門性の高いイベントを毎月開催しながら、地域の歴史を発信する施設として一般公開している。</p>			
			
		現在の旧堀部家住宅	
			
		お茶会の様子 H26.11	
<p>② 自己評価</p> <p>堀部家住宅の保存活用により、城下町南地区の歴史的資産を改めて見直し、旧堀部家住宅を中心とした地区全体の活性化に繋がっている。周辺住民や子供たちに武家社会への理解を促し、住民交流拠点及び市民活動拠点として活用できている。開館当初はまばらであった来館者は、年間6,000人を超えるようになり、事業をシリーズ化することにより、リピーターが増えている。</p> <p>建造物の管理活用には多くの費用が必要であり、特に市が所有する施設では活用方法が限定的であった。旧堀部家住宅ではできる限り管理コストを押さえながら複合的な活用ができるよう、現在のような管理体制を採用している。歴史的建造物の管理活用方法の一つとして本市における先進事例になることが期待され、評価できる。</p>			
外部有識者名	犬山市文化財保護審議会会長		
外部評価実施日	平成30年8月21日（火）		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>城下町に唯一残る武家屋敷の風格を残した建造物としての価値は高く、地域の特徴を伝える施設として整備・公開されたことは大変評価できる。</p> <p>今後も施設の啓発やPRに努め、適正に管理されることを期待する。</p> <p>一部補修が必要な部分もあり、計画的に整備を進めていただきたい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>旧堀部家住宅の整備については、まずは主要な部分の整備をし、一般公開することが優先されたため、一部の建物は未整備の状態である。公開や活用の範囲を広げるため、今後の整備について検討する。</p> <p>これまでの公開によって、建造物の認知度は徐々に挙がってきているが、来訪者に南地区の魅力をより感じてもらえるよう、引き続き啓発に努める。</p>			

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
取り組み	B 文化史料館リニューアル事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>文化史料館の立地する地区は、かつては犬山城内の三の丸であった場所に位置し、天守閣を間近に臨み、自然と歴史が美しく調和している。犬山城は、天守が国宝であるだけでなく、その周囲や城下町も含めた一帯が貴重な文化遺産であり、文化史料館が城下町の中で果たす役割は大きい。</p> <p>昭和62年の開館以来、郷土の歴史と文化に関する資料の収集、調査研究、保管、展示にあたり、地域に根ざした博物館として、また観光案内施設としての役割を果たしてきたが、犬山城と城下町を結ぶガイダンス施設としての役割を確立し「城と城下町の歴史と武家町人の生活文化」を調査・公開するための施設として再整備し、平成24年度「城とまちミュージアム」の愛称でリニューアルオープンした。</p> <p>エントランスホールには天保年間の犬山城下町を再現したジオラマを設置し、過去と現在を比較しながら今も変わらぬ町割りの様子を見ることができる展示物などで来館者に犬山の歴史をわかりやすく紹介している。</p>			
			
			
<p>② 自己評価</p> <p>犬山市の重点区域として設定している「犬山城と城下町」に特化した展示を行っていることから、犬山市の歴史的風致の維持及び向上に寄与する施設として評価できる。</p> <p>展示内容については、常時同じ資料を公開するのではなく、テーマや展示品を定期的に替えることで、様々な視点から「犬山城と城下町」について学ぶ機会が提供できている。</p> <p>平成27年度より犬山城との共通券を廃止し、史料館単館での入館料設定としたことにより、一時入館者数が減少したが、趣向を凝らした企画展を年に3～4回開催したり、フェイスブックを開説するなどPRIに努め、徐々に入館者が戻りつつある。</p> <p>一方で、文化史料館の所蔵品を始めとする資料について調査研究を行うことができる専門職員が不足しているため、今後の人材確保が検討課題である。</p>			
外部有識者名	犬山市文化財保護審議会会長		
外部評価実施日	平成30年8月21日（火）		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>「犬山城と城下町」を学ぶガイダンス施設として機能し、活用できていると評価している。特に、史料館の目玉である、江戸時代末頃の犬山城下町の姿が再現されているジオラマは、とてもよく作られており、史料館にあることで、多くの人に分かりやすく犬山の江戸時代の姿を伝えることができている。利用者からもこのジオラマについては、好評を得ている。このリニューアルで街並み見学者に立ち寄ることをお勧めしたい施設になった。</p> <p>史料館の所蔵品等各種資料を調査、研究することができる専門職員は、確かに不足していると感じているため、人材の確保を進めていくとよい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>展示と運営の改善を継続することにより、犬山城と城下町への関心を一層高め、地域を活性化する「まち歩き」の拠点としての施設の充実を図る。現在計画を進めている（仮称）文化史料館南館との連携の中で、誘客力の向上を図る。</p> <p>専門職員の配置についても、引き続き適切な人材の確保を検討する。</p>			

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
歴史的風致	1 犬山祭と犬山城・城下町に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 文化財保護法に基づく継続的な取り組みと資源の活用 II まちづくりと連携した歴史的資源及び公共施設の保全 III 市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成 V 文化施設の充実		

① 歴史的風致の概要

犬山には、現存最古の天守を誇る国宝犬山城と、江戸時代に尾張徳川家附家老であった成瀬家が犬山城主となって以来繁栄した城下町が現在も残っている。その城下町では寛永12年に始まった犬山祭と、一年を通して祭りにたずさわる町民の暮らしが一体となり、情緒あふれる歴史的風致を生み出している。城下町には幕末から明治・大正期に建てられた歴史的建造物が立ち並び、道路はかつてと変わらぬ形態を残しているが、それらは犬山祭の車山に対して一体となるような比率が保たれている。近世犬山城下町の伝統を受け継ぎ、その文化を今に伝えるこれら全ての要素が、後世に正しく伝承されるべき歴史的風致である。

② 維持向上の経緯と成果

犬山城では、その城郭遺構調査をし、犬山城の歴史的な価値を立証するため、平成21年度から平成27年度にかけて犬山城総合調査を実施した。調査によって犬山城と城郭の歴史的価値が再認識でき、城下町も含めた歴史的背景がより明確になった。平成29年度に「史跡犬山城跡」として史跡指定されたことは、本調査の大きな成果の一つである。

城下町では、道路の美装化整備や電線の地中化整備を実施したほか、歴史的建造物の歴史的風致形成建造物などへの指定を推進し、町並みの景観が向上した。それに伴って、城下町での住民活動によるイベントが増加したほか、名古屋鉄道株式会社とのタイアップにより城下町のPRを図り、観光客誘致が図られた。

犬山祭は、犬山城下町的生活文化の核として住民を結集させる上で重要な役割を果たしている。住民による祭りを継続するための年間を通したさまざまな活動は、城下町の風情に彩りを添えているだけでなく、平成28年にはこれらの営みが評価され、犬山祭が国内32件の祭りとともに「ユネスコ無形文化遺産」に登録された。この登録を機に、無形文化遺産の後世への継承の重要性を関係者、市民、国民に喚起することができた。



犬山城発掘調査の様子



城下町の賑わいの様子 H30.5



ユネスコ無形文化遺産登録決定時の様子

③ 自己評価

犬山市歴史的風致維持向上計画の重点区域になっていることから、特にハードな整備や歴史的資産を活かす取り組みが実施され、その成果は明らかである。史跡指定やユネスコ無形文化遺産への登録など、国内外から評価を受けたことは、これまでの取り組みの結果であると評価できる。

④ 今後の対応

歴史的建造物の所有者の高齢化や世代交代などにより、その維持管理が困難であったり、また、犬山祭においても地域の子どもの減少や若者の地域離れなどによる担い手不足が課題である。さらに、観光客誘致と文化財保護、そして住民の生活をいかに調整して、地域全体の魅力を上げるかという課題もあり、行政と住民、商業者が連携して城下町の今後のあり方を検討する。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
歴史的風致	2 木曾川周辺に見られる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成		

① 歴史的風致の概要

国の名勝に指定されている木曾川は、古くから物流の大動脈として活用されてきた。地理学者の志賀重昂は、木曾川兩岸の岩石と美しい景観がドイツのライン川に似ていることから「日本ライン」と命名した。この木曾川で行われる鵜飼は、犬山城第3代城主成瀬正親によって340余年前に幕府の御料鵜飼として始められもので、当時鵜匠を住まわせていた場所は「鵜飼町」という名前で現在も残されている。木曾川は川魚に恵まれた漁場でもあり、木曾川で採れた鮎を当時の城主は将軍家への歳暮として「粕漬鮎」にして送ったとされる記録が残っている。この名残から鮎でおもてなしをするため、明治4年創業の仕出し屋である「寅屋」では、初代の佐橋寅吉が鮎の甘露煮を作り、以来犬山名物として販売されるようになった。現在の寅屋は明治40年頃に建てられた店構えを残し、国登録有形文化財佐橋家として城下町の歴史的景観とも一体となって、その風情を醸し出している。

木曾川では毎年稚鮎の放流が行われたり、2月には地元の中学生が3年間使用した机や椅子を木曾川の水で洗う伝統が続けられており、その歴史と人々の営みが一体となった歴史的風致が残されている。

② 維持向上の経緯と成果

木曾川うかいは、夜に篝火を焚いて行う伝統的な鵜飼のほか、全国でも珍しい昼鵜飼を行い、伝統漁法の普及、継承を行っている。また、市民を対象にした親子鵜飼、陸上で鵜飼の解説のために行う座敷鵜飼など、鵜飼を知ってもらうための取り組みを進めている。平成24年には、東海地方初の女性鵜匠が誕生し活躍している。こうした取り組みにより、木曾川の魅力を発信することができた。

また、地元の中学生による机洗いの行事は、自然の恵みに感謝するとともに、木曾川への愛着を育む取り組みとして、昭和24年から続けられており、今後も継続していく。



木曾川うかいの様子



現在の寅屋(佐橋家)



木曾川での机洗いの様子

③ 自己評価

鵜飼の宣伝活動や啓発事業を行うことにより、観覧者数は平成24年度に約19,000人であったのが平成29年度では約25,000人に微増しており、成果が出ている。また、鵜匠や船頭の後継者を育成することが、鵜飼の伝承に繋がるため、子どもたちにいかに鵜飼の伝統を伝えていくかが課題である。

④ 今後の対応

船頭の高齢化が進んでおり、後継者の不足が懸念されているため、船頭育成事業を行い、鵜飼が継続できる環境を整えていく。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
歴史的風致	3 犬山焼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成		

① 歴史的風致の概要

犬山焼の発祥は、江戸時代の元禄もしくは宝暦年間の奥村伝三郎が今井の宮ヶ洞に窯を築いたことが始まりとされる。その後、復興と衰退を繰り返したが、犬山城主7代成瀬正壽により「御庭焼」として保護され、京都や近隣などから陶工が招聘された。この時に活躍した松原惣兵衛や絵工道平によって、犬山焼の特徴的な技法である「赤絵」と桜と紅葉をあしらった「雲錦手」の意匠が編み出され、この意匠を受け継ぐ3件の窯元（尾関作十郎陶房、大澤久次郎陶苑、後藤陶逸陶苑）が現在もその伝統技法を受け継いでいる。市内には窯跡が点在しており、中での犬山焼の発祥地である今井で作られた犬山焼8点が市指定有形文化財に指定されている。犬山焼が「御庭焼」として保護されたのは一時期であり、大半は地域の人々によってその伝統と技法が守り継がれてきたもので、今も犬山祭などのハレの場において料理をおもてなしする際に使用されるなど、人々の生活に息づいている。

② 維持向上の経緯と成果

城主にその価値を見出され、地域の人々によって守り伝えられてきた犬山焼の技法を継承し、その普及を進めるための取り組みを実施した。

学校や家庭では体験できない活動を通して、子どもたちの好奇心を育み、地域の文化に触れる機会を提供するため開講している子ども大学において、陶芸を学ぶ講座を開設し、犬山焼の窯元としては最も古い歴史をもつ尾関作十郎陶房で陶芸の基礎から実際に陶器を完成させるまでの工程を学んでいる。また夏休みの犬山焼親子教室をおよそ15年にわたって開催しており、職人の指導を受けながら作陶や絵付けに取り組んでいる。小さい頃から伝統技術に触れることによって、日本文化への理解を深め、歴史文化の継承者育成を目指すための土台作りを図った。

また、犬山市文化史料館では、史料館で所蔵する犬山焼コレクションや犬山城主成瀬家の家臣であり、多くの陶器画を残した近藤秀胤の作品を紹介する企画展を11年間で4回開催し、犬山焼の魅力を発信した。



子ども大学の講座の様子

H29.8



犬山焼教室の様子

H29.7

③ 自己評価

長年にわたる子どもたちを対象にした陶芸教室や、文化史料館での企画展の開催などの取り組みを通して、犬山焼を広く周知することができ、一定の効果があつた。



文化史料館企画展の様子

H29.9

④ 今後の対応

犬山焼については、様々な啓発事業が実施され、市民や特に子どもたちを対象にした事業はこれまでも実績を積んできているため、今後も継続して取り組む。

さらに学術的な調査を進め、犬山の歴史文化の一つとして正しく継承していくための資料の整理や分析を行う。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
歴史的風致	4 豊年祭とハッハ祭などにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 文化財保護法に基づく継続的な取組みと資源の活用		

① 歴史的風致の概要

市内楽田地区にある大縣神社は、桃山時代の建築様式を取り入れた「大縣造り」と呼ばれる特有の造りを残しており、重要文化財に指定されている。この大縣神社で行われる豊年祭では厄年の男たちが神輿を担いで、厄除祈願をする。また、8月に行われるハッハ祭では、夏の暑さに負けず健康で過ごせるよう、茅で作られた大きな輪を八の字にくぐる神事や、紙の人形に名前などを書き、祈禱をする「夏越祓(なごしばらい)」が行われる。

大縣神社は楽田村全てがその神域と考えられているように、本殿から鳥居まで一本道が続き、祭りの時期には参拝客や地域の住民で賑わい、伝統的な祭りの風情を醸し出す。

② 維持向上の経緯と成果

平成24年に民俗文化財伝承保存事業として、稚児山の修理に対する助成をした。屋根や車輪が復元され、祭礼行事の継承が図られた。

また、同年には国庫補助により緊急防災施設耐震改修事業として、大縣神社内の消防設備の改修が行われ、消防設備機能の向上が図られた。

1月26日の文化財防火デーにおいて、防火への啓発活動の一環として、隔年で防災訓練を実施している。消防署との連携のもと、神社関係者による防水銃を使用した消火訓練が行われ、文化財保護への理解と防火への意識向上を図った。

毎年3月15日直前の日曜日に行われる豊年祭は、大縣神社とその周辺地区に春を呼ぶ祭りである。祭礼当日は、子供神輿、稚児行列、稚児祈願祭、飾り車パレード、諸くわ神社から大縣神社への神幸行列、尾張太鼓奉納などさまざまな祭事が毎年執り行われ、地域全体で伝統を受け継いでいくための重要な要素となっている。ハッハ祭もまた、例年の茅の輪くぐり神事などのほか、手筒花火の奉納や盆踊りを行うなど、地域住民の夏の行事として定着している。



防災訓練の様子

H29.1



修復された稚児山

③ 自己評価

この11年では特に、防災設備の充実と防災に対する意識の向上を図った。文化財部局と消防本部との連携の中で事業が実施され、一定の成果があった。

修理助成についても必要に応じて適正に実施され、祭礼行事の継承が図られた。

④ 今後の対応

文化財に対する防災意識の啓発については文化財防火デーに併せて、所有者への啓発を図ってきた。しかし城下町では、この11年で文化財を消失する火災に2度見舞われているため、今後も継続して防災対策の推進と防災意識の向上に努める。歴史的風致を構成する地域の祭礼行事を正しく継承するため、引き続き助成事業と後継者育成事業への支援を実施する。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
歴史的風致	5 石上祭による歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成 Ⅳ 歴史的資源の新たな価値付け		

① 歴史的風致の概要

市指定無形民俗文化財である石上祭は、本宮山と尾張富士の背比べ伝説に由来し、尾張富士大宮浅間神社の祭礼行事である。祭の由来は天保8年6月1日に市内五郎丸の村人が大石を上げたのが始まりとされている。尾張富士の頂上や登山道にはこれまでに献石された石が残されており、人々の尾張富士に対する信仰と石に託した願いが伝わってくる。真夏の季節に昼は市内外から力自慢が集結し、人力で巨石を山に上げ、日が暮れると火がついた松明を山の中腹から麓まで振り回しながら駆け下りるといふ、かつてと変わらぬ風景を今日も地域の歴史的風致として見ることができる。

② 維持向上の経緯と成果

石上祭は現在に至るまで、地元の尾張富士大宮浅間神社の氏子たちによって連綿と続けられてきたが、近年、祭礼行事の変容と衰微の危機に直面している。また、その由来については、市内五郎丸組が大正3年に献石した石碑に刻まれた文面から読み取ることができるが、これまでにこの祭礼行事に関する専門的な資料調査が行われてこなかったため、その実態については不明確な点があった。そこで、往古の痕跡を辿り、現状を記録に残すことで、伝承基盤の強化と地域の活性化を図るため、平成29年度より総合調査を開始した。

初年度においては資料調査と現地調査、関係者への聞き取り調査を実施し、資料整理と現状把握をすることができた。調査の開始にあたり、市内外に向けて資料の提供を呼びかけたところ、市外や県外からの反響があり、この祭礼行事に対する関心の高さをうかがうことができた。



登山道沿いの献石群 H30.4



石上げの様子 H29.8



松明作りの様子 H29.2

③ 自己評価

地域に伝わる無形の伝統行事の中には、後継者不足によって継続が困難なものが少なくない。今回の調査に対しては地元住民からも期待の声が寄せられており、調査をすることで地域の活性化や祭の価値の再発見に繋がった。

④ 今後の対応

石上祭総合調査は平成29年度の調査結果を踏まえて報告書の作成に取り組む。調査結果については地元住民とも共有し、祭礼行事の継承と地域のさらなる活性化に繋げる。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
歴史的風致	6 虫送りにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成 Ⅳ 歴史的資源の新たな価値付け		

① 歴史的風致の概要

犬山市は豊かな自然を有し、広大な里山や田園が広がる地域がある。市内には農業用水を確保するためのため池が築かれており、中でも入鹿池は日本最大級を誇る農業用ため池で、地域の農家にとっては欠かせない存在である。稲作農家にとって田植えの後に発生するウンカという害虫を追い払い、豊年を祈る虫送りの行事が今日まで受け継がれてきた。特に稲を食い荒らす害虫と化身した武将・斎藤実盛の藁人形を作って虫送りをする行事が、江戸時代中期から続けられている。毎年7月中旬頃に営農する住民によって行われ、地域の神社仏閣や入鹿池を始めとしたため池などと一体となって伝統的に行われる伝統行事である。

② 維持向上の経緯と成果

虫送りの行事では、子どもたちが藁で作った人形を竹の棒に付け、それを持って祭文を唱えながら地域内を回る虫送り行列が行われる。民俗文化財保存伝承事業の一つとして助成をし、地域の伝統文化の伝承を図った。

虫送りの舞台の一つである入鹿池が、当時としては極めて先進的な工法により建設されたことと、地域の農業振興への長年にわたる貢献が評価され、平成27年10月に世界かんがい施設遺産に登録され、入鹿池の価値が見直された。この登録を契機にさらなる入鹿池の啓発をするため、民間の考案により入鹿池の水で栽培された米「あいちのかおり」を使用したダムカレーが提供され、また、ダムカードを発行するなど、地域の活性化に繋がった。



虫送り行列

H26.7



入鹿池ダムカレー



世界かんがい施設遺産に登録された入鹿池

③ 自己評価

かつては全国各地で行われていたとされる虫送りも、近年は減少傾向にある中で、長年変わらず続けられている地域の伝統行事を助成することで、行事の伝承と活性化に繋がった。

④ 今後の対応

民俗行事の継承においては、少子高齢化に伴う後継者不足が課題であり、虫送りについても同様である。行事を途絶えさせないためにも、行事の歴史的文化的価値について継続して調査し、啓発していく。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
------	-----	--------	----------

① 庁内組織の体制・変化

文化財行政を重点的な施策として位置付け、文化財の保存から活用までを一元的施策として進めるため、平成21年4月より教育委員会に歴史まちづくり課を設置した。

また、庁内連絡調整会議を開催し、関係部課での連携をとりながら各種施策の推進を図った。

	部署名
調整会議	経営部企画広報課
	// 経営改善課
	健康福祉部福祉課
	都市整備部都市計画課
	// 整備課
	// 土木管理課
	経済環境部産業課
	// 観光交流課
	市民部地域安全課
	消防本部消防総務課
	// 予防課
	教育部文化スポーツ課
// 学校教育課	
事務局	教育委員会教育部 歴史まちづくり課



庁内連絡調整会議の様子

② 庁内の意見・評価

（庁内連絡調整会議での意見・評価）

● 庁内での連携に対する意見

・連絡調整会議により庁内での連携が図られることは、事業の効果的な着手と進行に繋がり大変よい。

● これまでの取り組みに対する意見

・ハード整備が進み、来訪者が増加したなど、これまでの取組による一定の成果があることは確かだが、一方で、市民生活への悪影響や交通渋滞、事業の地区による偏重など、今後の課題もあり、さらなる取り組みが必要である。

・過去の歴史的資料がなくて困っているといった事例があるとするならば、我々は将来そうならないように現代の書類や資料を残す努力をすべきではないか。

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
<p>① 住民意見 （これまでの歴史資産を活かしたまちづくりセミナーでの参加者アンケートに記載された意見）</p> <p>H26</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まち歩きもいいが、緑の山の中の散歩道の整備や新しいルートを。 <p>H27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 城下町以外にも犬山には多くの自然や伝統文化があるため、そのようなところにもスポットをあててほしい。 <p>H28</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の史跡等の案内看板を見直し、充実させてほしい。 <p>H29</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客で賑わうのは大変よいことであるが、住んでいる人の利便性も考慮すべき。 ・ 市民ももっと勉強しないとイケない。行政と市民が協力してまちづくりをすすめていけたらよい。 ・ 城下町の風景は犬山市にとって宝であり、今後も残していけるようなまちづくりをしてほしい。 ・ 最近、のぼりやテントが城下町に増えたことが気になる。 ・ 観光客のマナーが悪い。市は観光と文化財の保護のどちらに重きをおいているのか。 ・ 犬山には古くて趣のある空き家が多く残っている。それらをうまく活用できないか。 			
<p>② 協議会におけるコメント （これまでの犬山市歴史まちづくり協議会におけるコメント）</p> <p>H23</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旧堀部家住宅については、保存にとどまらず、今後活用していくことを検討してほしい。堀部家住宅が犬山市内における歴史的建造物の活用先進事例となるよう期待している。 <p>H24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 犬山市は行政と民間との良好な関係により歴史的な建造物の保護施策が進んでいるが、設計監理者は少ない。愛知県全体でいえることだが、今後は技術者養成の環境づくりが必要だ。 <p>H25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画書に記載してある犬山城について、正確な情報を追加すべき。 ・ 「古券図」は大変貴重なものであり、有効活用していただきたい。 <p>H26</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 城下町の町並みにおいて、軒先が後退してしまっているところがあり、景観的によくない。景観の補助で修景を行えないか検討してほしい。 ・ からくりを始めとした伝統芸能の伝統や技術についても残していただきたい。 <p>H27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観面や空き家対策、伝統的建造物の保存について、歴史まちづくり課と都市計画建築課で協力しながら、広い意味でのまちづくりを進めていただきたい。 ・ 城下町の町並みを守るために、景観計画に強制力を持たせる景観地区の導入を検討していくべきである。 <p>H28</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的風致維持向上計画に記載されている事業が概ね計画通りに進んでおり、評価できる。 ・ 平成27年1月に発生した城下町の大火災について、市として今後どういう関わり方をしていくかを検討していく必要がある。 <p>H29</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建造物は保存と活用のバランスをとらないと、歴史的な価値が損なわれてしまう。行政がしっかりとルールを定めて、積極的に関わっていく必要がある。 ・ 犬山市内には城下町以外にも歴史的に価値の高い資産が多く残っていると思う。それらを調査した上で、整備・公開することは重要であり、積極的に進めていただきたい。 ・ 災害など避けられない不測の事態が発生した場合、個人や民間が所有する貴重な歴史資料が失われてしまうことは非常に残念である。行政が呼びかけて資料のデジタル保存を推進したほうがよい。 			

市町村名	犬山市	評価対象年度	H20～H30年
<p>① 全体の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本市の歴史的風致の維持向上において<u>歴史的建造物</u>は重要な構成要素である。しかし所有者の高齢化や世代交代に伴い、滅失が年々進んでおり、<u>継続的な保存・活用</u>を図る必要がある。また、古墳群など市内には未整備・未公開の歴史的資産が残っており、それらの整備・公開をする必要がある。 2. これまでも道路の美装化や電線地中化、旧体育館の撤去など、景観の向上を図ってきた。しかし近年町並みと調和しない屋外広告物が増えたり、また世代交代に伴う建造物の改修が顕著であるなど、<u>歴史的景観等の保全・活用</u>に引き続き取り組む必要がある。 3. 城下町における空き家の増加は町並みの連続性が失われるだけでなく、防火対策を進める上でも課題である。また、急増する観光客への対応も不可欠であり、引き続き<u>歴史的建造物の周辺環境の整備</u>に取り組む必要がある。 4. <u>地域の伝統文化や歴史的な祭礼行事等の伝承</u>は、後継者や指導者が不足し、継続が困難となっているものもあり、大きな課題である。 5. 市内には様々な歴史的資産が残されているが、その多くは十分な調査が行われず、資料の整理がなされないまま現在に至っている。<u>新たな歴史資産の発掘と歴史的な価値付け</u>を図る必要がある。 			
<p>② 今後の対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>歴史的建造物の継続的な保存・活用</u> 歴史的価値の高い建造物の文化財指定等を推進する。また、修理・修景に対する補助制度の拡充を検討し、管理の継続が困難な建造物や空き家の活用について検討する。市内に残る古墳群については、開発等により減少傾向にあるが、調査や整備を進め、地域の活動とも連携し、保存と活用を図る 2. <u>歴史的景観等の保全・活用</u> 景観計画との連携を図りながら歴史的景観の継続的な保全を図る。現在取り壊しが決まっている犬山市福祉会館の跡地については、現在地の歴史的な価値を再調査し、周辺の景観との一体性を考慮した利用計画とするよう、担当課と連携し整備を進める。空き家対策や屋外広告物のルール化についても市民や関係団体との協働を図りながら、引き続き取り組んでいく。 3. <u>歴史的建造物の周辺環境の整備</u> 歴史的建造物を火災などから守るため、所有者に対する啓発を行うほか、地域の防災機能の強化や地域住民による防災組織の強化を推進していく。 また、外国人を始めとする観光客の受け入れ環境を整備を進めるほか、市内各所に点在する観光施設や文化財等を活かすため、観光客の新たな動線の創出と市域全体の回遊性を向上させる取り組みを実施していく。 4. <u>地域の伝統文化や歴史的な祭礼行事等の伝承</u> 行事の実施や後継者育成事業に対する補助制度を活用して継続的に支援していく。行事の継承者同士が交流できる場の創出やホームページ等での活動紹介など、伝統行事の活性化に繋がる取り組みを検討する。 5. <u>新たな歴史資産の発掘と歴史的な価値付け</u> 未調査の歴史的資産については積極的な調査を実施し、資料の発掘と歴史的な価値の解明を進める。 			